

取組実績の概要（2 ページ以内）

本事業は、本学が培った女子リベラルアーツ教育の伝統を平成 24 年の文部科学省中央教育審議会答申が求める「大学教育の質的転換」に重ね合わせ、留学、インターンシップやボランティア等の学外学修の機会をより多くの学生に与え、それら広義の社会体験活動と学内学修との間のシナジー効果により、学びを通じた女性のエンパワーメント・女性による社会のエンパワーメントのさらなる促進をその目的として実施された。

本事業での取り組みによって以下の成果が得られた。

【4 ターム制への完全移行と学外学修の促進】

2017 年度に 4 ターム制に完全移行した。第 1、3、4 タームは 9 週間をサイクルとする学期とし、既存の科目を組み替えて開講した。第 2 タームは約 6 週間とし、夏期休暇と合わせて約 10 週間を「ギャップターム」と称し、長期学外学修への参加を奨励する期間として設定した。

学年暦改定と並行して学外学修に参加できるための制度を整えた結果、2017 年度から 2019 年度の 3 年間で 800 人を超える学生が海外サマースクール、国内外でのインターンシップ、ボランティアなど多岐にわたる学外学修に参加することができた。ギャップターム期間を海外大学の夏期休暇期間に合わせて設定したことにより、海外大学が主催するサマースクールなどへの参加が可能となった。本学での学びと親和性の高いサマースクールを実施している大学（南カリフォルニア大学、ユトレヒト大学、ジュネーブ国際開発研究大学院、ブリティッシュコロンビア大学ほか）と協力協定を結び、世界の大学生が参加する海外活動プログラムに本学の学生も参加できる環境を整えることができた。その結果、3 年間で約 240 人の学生が 34 か国・地域にわたって様々な活動に参加した。

国内においても、ギャップターム導入を機に新しい産学連携の取り組みが創出された。日本航空、朝日新聞、パソナ、パナソニックほか、業界を代表する多くの企業と連携して実施した課題解決型学修（PBL）が実現した。学生たちは実社会での課題に取り組み、そこで得た知見を学内の学びにも活かすなど、学外と学内の学びを繋げることができた。

【学外学修センター設置】

学外学修を支援する環境を整えるため、学外学修センターを設置した。本センターは、学外学修のワンストップサービスの窓口として専従の教職員を配置し、プログラムの企画、情報収集、事前事後学習、実習時の危機管理などを行った。本センターは各学科から選出される教員及び主要部署の責任者から成る運営委員会による監督・指導の下に活動し、内部評価、外部評価などを通じてセンター運営の改善に努めた。5 年間を経て、本センターの活動は全学の教職員及び学生に浸透し、補助期間終了後も存続することが決まっている。

【カリキュラム改訂】

学生が参加する様々な活動に応じた科目を設置した。就労体験を通じた学びを主とした「インターンシップ」、海外サマースクールへの参加や自主研究、研修など自ら設定した学びを対象とした「インデペンデントスタディ」、社会奉仕を学ぶ「サービスマーケティング」の 3 科目を整備した。事前には学生の目標設定、汎用性の自己分析、危機管理講習などを、事後には活動の振り返り、目標達成度、今後の課題設定を行って学修効果を高める指導を行った。カリキュラムを改訂したことにより学生たちの学外学修を通じた学びの可視化ができた。

本事業によって導入されたギャップタームによる柔軟な学年暦の運用と学生の主体性涵養は、不透明な時代にあってもレジリエンスを大学及び学生に与え、変化に強い大学として Tsuda Vision 2030 として本学が掲げたモットー「変革を担う、女性であること」を体現することに寄与した。

その成果もあり、THE 世界大学ランキング日本版 2020 において、本学は総合順位 44 位（2019 年の 57 位より 13 位ランクアップ）となり、私立女子大学として 3 年連続 1 位を獲得した。同ランキングの「教育充実度」では 2019 年度 20 位から 2020 年度 15 位となるなど、本事業による大学教育改革後に本学全体の評価が上がったことは、当初の事業計画での想定以上の結果となっている。

【必須指標の達成度】

	平成 27 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
長期学外学修プログラムに参加する学生の割合 [% (参加学生数 / 全学生数)]	0.3	25.0	15.0
長期学外学修プログラムを経た学生 の成績評価 [GPA 平均]	3.4	3.1	3.2
退学率 [% (退学者 (除籍者を含む) / 在籍者数)]	1.1	1.0	1.3
学生の授業外学修時間 [時間数 (1 週間当たり (時間))]	0 ^{※1}	21.0	15.3
進路決定の割合 [% ((就職決定者数 + 進学者数) / 卒業者数)]	89.3	97.0	92.8 ^{※2}
学生が企画する活動数 [件 (活動数)]	7	20	33

(注) この計算における参加学生とは、在学中に該当プログラムを経験した人数を指し、該当年度に実施した人数とは異なる。

(※1) 調査未実施により不明

(※2) 進路決定不明者 5 名は無業者に含める